

表1 授業科目一覧(経営情報学研究科 起業・経営情報専攻)

領域	形態	科目コード	科目ナンバリング	授業科目	単位数	担当者	2020開講	備考
A: 企業・ 起業の環境	講義	5001	EIAM1001	現代経済特論	4(選)	中野 聡	○	
		5002	EIAM1002	中小企業特論	4(選)	----	--	開講せず
		5003	EIAM1003	金融システム特論 (中小企業金融特論)	4(選)	----	--	開講せず
B: 企業・ 起業の マネジメント		5021	EIAM1004	組織行動特論	4(選)	伊藤真一	--	隔年開講:2020 開講せず
		5022	EIBM1002	国際経営特論	4(選)	唐澤 豊	○	
		5025	EIBM1003	人的資源管理特論	4(選)	伊藤真一	○	隔年開講:2020 開講
		5040	EIBM1004	財務会計特論	4(選)	氏原茂樹	○	隔年開講:2020 開講
		5026	EIBM1005	マーケティング管理特論	4(選)	----	--	開講せず
		5027	EIBM1006	ロジスティクスマネジメント特論	4(選)	----	--	開講せず
		5028	EIBM1007	生産マネジメント特論	4(選)	佐藤勝尚	○	
		5029	EIBM1008	経営情報特論	4(選)	唐澤 豊	○	
		5030	EIBM1009	起業論特論	4(選)	佐藤勝尚	○	
		5031	EIBM1010	ファイナンス特論	4(選)	氏原茂樹	--	隔年開講・2020 開講せず
		5032	EIBM1011	原価計算特論	4(選)	----	--	開講せず
		5041	EIBM1012	制度会計特論	4(選)	氏原茂樹	--	隔年開講・2020 開講せず
		5036	EIBM1013	租税法特論	4(選)	松岡輝	○	
		5033	EIBM1014	税務会計特論	4(選)	松岡輝	○	隔年開講・2020 開講
		5034	EIBM1015	会計監査特論	4(選)	----	--	開講せず
C: 企業・ 起業のマ ネジメント・ サイエンス	5051	EICM1001	経営システム工学特論	4(選)	今井正文	○	隔年開講・2020 開講	
	5052	EICM1002	評価システム特論	4(選)	-----	--	開講せず	
	5053	EICM1003	ディジションメイキング特論	4(選)	今井正文	--	隔年開講・2020 開講せず	
D: 企業・ 起業のメ ディア/ネ ットワーク	5055	EIDM1001	メディアシステム特論 I	4(選)	-----	--	開講せず	
	5056	EIDM1002	メディアシステム特論 II	4(選)	-----	--	開講せず	
	5057	EIDM1003	情報処理特論	4(選)	見目喜重	○	隔年開講・2020 開講	
	5058	EIDM1004	ネットワークシステム特論 I	4(選)	今井正文	--	隔年開講・2020 開講せず	
	5059	EIDM1005	ネットワークシステム特論 II	4(選)	今井正文	○	隔年開講・2020 開講	
論文指導	演習	5071	EIEM1001	特別研究 I	4(必)	指導教員	○	佐藤勝尚、氏原茂樹 見目喜重、今井正文 中野聡、見目喜重
		5072	EIEM2003	特別研究 II	4(必)		○	佐藤勝尚、見目喜重
演習/実習		5082	EIEM1002	特別演習 I	4(選)	唐澤 豊	○	
		5083	EIEM1004	特別演習 II	4(選)	唐澤 豊	○	

開講年度・開講学期	2020年度 春学期～秋学期			授業コード	50010		
科目	5001 現代経済特論			授業種別	春学期（週間授業）、秋学期（週間授業）		
担当教員	中野 聡			単位数	4		
その他担当者							
授業概要	<p>経済のグローバル化がさらなる進展を遂げ、先進資本主義諸国の経済・社会政策が自由主義的転回を遂げるにつれ、多様な社会的課題（少子高齢化、労働市場の分断、格差と貧困、福祉国家の危機、環境問題など）が改めてクローズアップされるようになった。本講座では、戦後体制の考察を通して、その民主的遺産を次世代に繋げる可能性を検討する。特に、将来の社会経済システムの構想が時代的に求められていることに鑑み、欧州（EUと加盟諸国）における、またグローバル経済における（代替的）社会と経済、公共政策のあり方を学び、その評価を試みる。授業では、読書と輪読、レポートの作成、報告を通し、参加者が各自の視点を形成することを支援する。また、論文構成の方法を学び、修士論文に繋げる。</p>						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3				
ディプロマポリシーとの関連性	◎						
授業の到達目標	現代資本主義論の習得やディスカッションを通し、① 先進諸国の戦後社会経済体制の基本的構成要素、② 1980年代以降の新自由主義の時代におけるその変化、③ そうした変化の妥当性に関する理解を、学習者各自が獲得すること。						
テキスト（教科書）	英文テキストを開講時に指示する。						
参考書および参考文献							
受講条件	洋書講読（英文）に支障がないこと。						
事前・事後学習（内容・時間）	予習・復習の内容（各コマあたり4時間相当） 指示された論文・著書等の次回学ぶ箇所を要約し、授業中に議論すべき論点を整理する。						
成績評価	授業参加および中間、期末論文による評価。						
評価項目	割合		評価基準				
授業参加	20%		学修準備がされていること				
中間および期末論文	80%		論文の適切性				
授業の実施方法と授業計画	<p>現代資本主義に関する著書の輪読と考察。特に、多様な資本主義 (varieties of capitalism) とグローバリゼーションに関する著書（英文）の中から、受講生の関心等に鑑みて複数のテキストを選択する。授業は自主学習（アクティブラーニング）ベースで進め、ディスカッションを伴う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ B. Hancke ed. (2009) Debating Varieties of Capitalism, Oxford: Oxford University Press.</li> <li>・ C. Crouch (1999) Social Change in Western Europe, Oxford: Oxford University Press.</li> <li>・ ジョージ・ソロス「ソロスの資本主義改革論」（日本経済新聞社、2001.12、2100円）</li> <li>・ レスター・サロー「知識資本主義」（ダイヤモンド社、2004.9、1800円）</li> <li>・ クライブ・ハミルトン「経済成長神話からの脱却」（アスペクト、2004.11、1600円）</li> </ul> <p>複数回レポートを課し、要約と議論の論点の整理と議論を行う。最終論文の作成を通し、基礎的な研究倫理を再学習する。なお、レポートと論文に関しては、フィードバック（校正と再提出）を行う。</p>						
ナンバリング	EIAM5001						

開講年度・開講学期	2020年度 春学期～秋学期			授業コード	50220		
科目	5022 国際経営特論			授業種別	春学期（週間授業）、秋学期（週間授業）		
担当教員	唐澤 豊			単位数	4		
その他担当者							
授業概要	<p>国際経営を多国籍企業を中心としてその経営の基本、特徴並びに日本企業との比較についての理解を第一義的な目的とする。次いで、国際経済日本における外資系企業の経営特性並びにその課題を通して国際経営上のコンフリクトと克服策を検討する。特に、現地化政策(Localization)と中央管理(Centralization)について夫々の特徴と今後の方向性について論点を絞る。具体的には多国籍企業の全般的な経営について言及し、次いでサブシステムである販売、マーケティング、生産、資材購買・国際調達、ロジスティクス、人事労務、情報及び財務等について考察し、日本企業との比較を通して多国籍企業経営の本質を理解すると共に多国籍化を展開する際の経営上の問題点である文化、風土、価値観、社会生成環境、経済、政治等について日本における過去の事例に基づいて考察する。最後に、多国籍企業の経営戦略の構造体系である環境分析、目標設定、戦略策定、隘路事項、影響要因、資源の検討、新規事業の機会を習得し、経営戦略展開の基本と実態を理解する。</p>						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3				
ディプロマポリシーとの関連性	◎						
授業の到達目標	<p>基本的に下記に準拠する：</p> <p>① Q&amp;A ② Home Work ③ プレゼンテーション及びディスカッション ④ Small Test</p>						
テキスト（教科書）	「国際経営新版」 吉原秀樹著 有斐閣、経営戦略ケースマニュアル、講義ノート、その他補足資料を随時指示する。						
参考書および参考文献	：基本資料は随時配布する。参考文献：「外資系企業の限界」唐澤豊 著 有斐閣 補足資料：「多国籍企業の定義」、「日中米の経営特性の比較」等必要に応じ随時配布						
受講条件	なし						
事前・事後学習（内容・時間）	予習・復習の内容（各コマあたり4時間相当） ・講義と共に個人別に予習、発表、議論、コメントの授業形式を採用する。						
成績評価	・レポートの提出及び通常点に依って評価する。但し、全講義の70%以上の出席を条件とする。						
評価項目	割合		評価基準				
レポート							
通常点							
授業の実施方法と授業計画	<p>国際経営特論の授業計画は下記の通りである。特にわが国に於ける国際企業のおペレーションを日米比較を通して、その特徴を論じる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 国際企業・多国籍企業：定義、発展プロセス、経営基盤の比較 ～3回</li> <li>2. 外資系企業の実態：現況、参入・撤退、位置、成功要因、戦略 ～1回</li> <li>3. 経営戦略：基本的な考え方、戦略策定、評価方法 ～3回</li> <li>4. 雇用並びに人事組織：終身雇用制度、ジョブホッピング制度、組織、給与制度、採用 ～3回</li> <li>5. マーケティング：基本的な考え方、戦略、流通チャネル、グローバルシステムの特徴、組織、評価方法 ～3回</li> <li>6. グローバル生産システムの特徴、戦略、評価方法 ～2回</li> <li>7. グローバル調達戦略と基本管理方式～2回</li> <li>8. グローバルロジスティクスシステムの特徴、戦略、評価方法 ～3回</li> <li>9. グローバル研究開発システムの特徴、戦略、評価方法 ～2回</li> <li>10. グローバル財務システムの特徴、戦略、制度及び財務監査と業務監査 ～2回</li> <li>11. 意思決定プロセス：基本的な考え方、メカニズム、グローバルシステムの特徴、構造～2回</li> <li>12. 多国籍企業の経営戦略の体系と展開～4回</li> </ol> <p>基本項目ごとに発表とディスカッション形式を採用。</p>						
ナンバリング	EIBM5002						

開講年度・開講学期	2020年度 春学期～秋学期			授業コード	50250		
科目	5025 人的資源管理特論			授業種別	春学期（週間授業）、秋学期（週間授業）		
担当教員	伊藤 真一			単位数	4		
その他担当者							
授業概要	<p>本科目では、組織における人的資源管理について理解を深めることを目的とする。企業をはじめとする組織は、組織を構成する一人一人によって支えられている。その組織の存続やその組織が掲げる目標を達成することができるかは、組織メンバーがやる気を持って、よりよく働くことができるかどうかにかかっている。</p> <p>講義を通じて、組織メンバーがやる気を持ってよりよく働く組織を作り上げるための知識について学習していく。</p>						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3				
ディプロマポリシーとの関連性	◎						
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人的資源管理の基本的な理論を習得する</li> <li>2. 理論を用いて、身の回りの組織を分析・理解・説明できるようになる</li> <li>3. 学習したことを研究や論文の執筆に活かす</li> </ol>						
テキスト（教科書）	履修者の興味関心に合わせてテキストを決定します。						
参考書および参考文献							
受講条件							
事前・事後学習（内容・時間）	予習・復習の内容（各コマあたり4時間） 指示されたテキストを読み、授業中に議論すべき内容を整理する。						
成績評価	授業における報告内容や、ディスカッションに対する貢献度を総合的に評価する。						
評価項目	割合			評価基準			
授業における報告内容	70%			報告内容の適切性			
ディスカッションに対する貢献度	30%			議論の理解度や発言内容			
授業の実施方法と授業計画	<p>受講生は、各自がテキストを分担、報告し、その内容についてクラス全体で討論する。</p> <p>【前期】 第1回 イン트로ダクション 第2回～第14回 人的資源管理論に関する文献輪読 第15回 まとめ</p> <p>【後期】 第1回 イン트로ダクション 第2回～第14回 人的資源管理論に関する文献輪読 第15回 まとめ</p> <p>なお、受講生に応じ、授業内容の一部が変更されることがある。</p>						
ナンバリング							

開講年度・開講学期	2020年度 春学期～秋学期			授業コード	50280			
科目	5028 生産マネジメント特論			授業種別	春学期（週間授業）、秋学期（週間授業）			
担当教員	佐藤 勝尚			単位数	4			
その他担当者								
授業概要	本コースは企業活動全体の中で「生産機能」が果たす役割を生産システムとしてとらえ、①生産に関する主要な基本知識の体系的な理解をはかり、②生産システムに関連した主要な管理システムを解説する。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3					
ディプロマポリシーとの関連性	◎							
授業の到達目標	①生産の概要が詳細に説明できる ②生産方式と生産方式のタイプを説明できる ③生産計画と統制の方法が説明できる ④資材管理、品質管理など生産に関わる主要な管理方式が説明できる ⑤JIT生産を詳細に説明できる ⑥生産情報のシステム化の概要が説明できる ⑦グローバル化におけるメーカーの進むべき方向を解説できる ⑧上記①から⑦における改善案を提示できる ⑨経営における生産の果たす役割を環境、競争、商品などの観点より説明できる							
テキスト（教科書）	適宜講義なかで紹介する							
参考書および参考文献	適宜、参考文献を紹介する。							
受講条件	なし							
事前・事後学習（内容・時間）	①予習・復習の内容（各コマあたり2時間相当） 事前に指定した文献を熟読しておくこと。また、講義後に再度講義内容を復讐しておくこと。 ②自分の好きな製品の構造をネットで調べておくこと。 ③近年、アジア諸国へのメーカー（生産企業）の進出が著しいが、また一方では国内への回帰も見られる。これら企業の動向を「日本経済新聞」や「日経ビジネス」等を読んで理解しておくこと。							
成績評価	授業の到達目標の達成度を評価する。							
評価項目	割合	評価基準						
中間試験	30%	講義内容の理解度						
定期試験	40%	講義内容の理解度						
課題レポート	30%	課題に対する内容の適切度						
授業の実施方法と授業計画	I部 生産マネジメントの基本 第1回 イントロダクション ー生産概念の理解（物造りとは何だろうか） 第2回 経営における生産機能 ー経営活動における物造りの役割とはー 第3回 生産方式と生産方式のタイプ ー物造りのタイプとその方式ー 第4回 生産計画 ー生産活動を計画するとは何をすることかー 第5回 生産統制 ー生産活動のコントロールの方法 第6回 資材管理 ー資材の種類とその管理方法ー 第7回 総合的品質管理 ー日本的品質管理の特徴とTQM 第8回 日本型生産システムの特徴 ー日本の生産システムの特徴 第9回 国際資材管理 ーグローバルの中での資材物流と資材管理ー 第10回 FA ー工場の自動化のあり方ー 第11回 JITとMRP(1) ートヨタ生産方式の特徴とジャスト・イン・タイムの本質ー 第12回 JITとMRP(2) ー資材の所要量の計画と処理計算ー 第13回 生産情報管理（POPシステム） ー生産における情報の管理はいかにすべきかー 第14回 CIM ーコンピュータによる統合的生産管理のシステム化ー 第15回 グローバル化時代のメーカーの進むべき道ー II部 生産システムの改善 第1回 生産システムの競争力 第2回 開発と生産のプロセス分析1 第3回 開発と生産のプロセス分析2 第4回 生産の歴史分析 第5回 生産の競争力の管理 第6回 生産性管理と改善 第7回 納期改善・工程改善1 第8回 納期改善・工程改善2 第9回 品質改善 第10回 フレキシビリティ1ー部品 第11回 フレキシビリティ2ー工程 第12回 生産戦略1 第13回 グローバル化に「おける生産戦略」 第14回 総合商品力と生産 第15回 生産と環境問題 ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することがある なお、授業の節目。節目において課題レポートを課すので、翌週にレポートを提出すること。フィードバックは、提出されたその日に解説をする。							
ナンバリング	EIBM5007							



開講年度・開講学期	2020年度 春学期～秋学期			授業コード	50290			
科目	5029 経営情報特論			授業種別	春学期（週間授業）、秋学期（週間授業）			
担当教員	唐澤 豊			単位数	4			
その他担当者								
授業概要	<p>経営情報システムの特質と経営情報システム設計の本質的な課題についての理解を第一義的な目的とする。具体的には経営構造と情報システムについて言及し、経営における戦略情報、計画情報、管理情報並びに業務情報の基本をマクロ並びにサブシステムベースで理解する。</p> <p>経営情報システム設計の基本スタンスは金額的価値をベースとした理論が中心であったが、物の流れを軸としたシステム設計論（唐澤理論）を提案し、研究を重ねている。経営情報システムを情報の循環理論をベースとして展開している点が本講義の最大の特徴である。本講義は、経営情報システムをその基礎理論から、具体的な展開の仕方について検討することにある。併せて、意思決定理論の基本理論を理解する。具体的な内容は以下の通りである。</p> <p>①経営情報システムの基本的な定義  ②経営情報システムの発展  ③経営構造と情報システム  ④意思決定支援システムと意思決定理論の基本  ⑤システム設計論  ⑥経営情報システム設計の基本スタンス  ⑦経営情報システムの設計の推進方法</p> <p>上記講義により、経営における情報循環理論をベースに実践的な経営情報システムの設計方法を理解する。</p>							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3					
ディプロマポリシーとの関連性	◎							
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 経営情報システム関連理論の理解</li> <li>2. 経営情報システム設計の基本スタンスの理解</li> <li>3. システム設計論の理解</li> <li>4. 情報循環理論の理解</li> <li>5. 経営戦略・経営計画・経営管理・経營業務等の仕組みの理解</li> <li>6. 経営情報システム設計の基本の理解</li> <li>7. 実社会における経営情報システム設計の基本となる事項の理解</li> <li>8. 意思決定システムと基礎理論の理解</li> </ol>							
テキスト（教科書）	<p>テキスト：「情報システムの分析・設計」唐澤豊著 オーム社  講義ノート：「経営情報システムの定義」、「経営情報システムの設計」、「経営情報システムの発展」、「経営情報システム設計の唐澤理論」、「経営計画システムの構造的体系」、「意思決定理論の全般」、「意思決定理論の理解と計算問題」</p> <p>但し、原則として講義時に配布する。  参考文献：特になし</p>							
参考書および参考文献	「経営情報システムの設計と分析」唐澤豊著 オーム社、都度指示							
受講条件	特になし							
事前・事後学習（内容・時間）	<p>予習・復習の内容（各コマあたり4時間相当）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本部分は講義形式をとる。</li> <li>・予習・発表・議論・考察の授業形式とする。</li> </ul>							
成績評価	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. レポートの提出とその内容、Small Test、Presentation 及び Q&amp;A 等に依って評価する。但し、全講義の70%以上の出席を条件とする。</li> <li>2. 授業外の学習方法：テキストによる予習及び復習を都度指示する。</li> </ol>							
評価項目	割合		評価基準					
レポート								
Small Test								
Presentation 及び Q & A								
授業の実施方法と授業計画	<p>経営情報システムの授業計画は下記の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 経営情報システムの基本：情報の定義、種類、経営情報システムの定義 ～2回</li> <li>2. 経営情報システムの発展：経営情報システムと経営思想、企業経営、意思決定支援システム ～2回</li> <li>3. 経営構造と情報システム：経営戦略の枠組と基本構造、経営計画とシステム、情報循環理論の展開、経営情報システム設計の枠組 ～4回</li> <li>4. 意思決定支援システム：意思決定支援システムの歴史・定義、リレーショナル型意思決定論の概要・基本理論の理解と計算～6回</li> <li>5. システム設計の接近方法と経営戦略システムの構造と設計～1回</li> <li>6. 総合計画の構造と分析と設計～2回</li> <li>7. 個別長期計画の分析と設計：販売計画、長期生産計画、長期購買計画、長期ロジスティクス計画、長期研究開発計画、長期人事・組織計画、長期経理・財務計画～10回</li> <li>8. 基本管理システムの構造と分析・設計～1回</li> <li>9. 基本業務システムの構造と分析・設計～1回</li> <li>10. システム設計の要点：演繹法と帰納法、ミクロとマクロ分析～1回</li> </ol>							
ナンバリング	EIBM5008							

開講年度・開講学期	2020年度 春学期～秋学期			授業コード	50300		
科目	5030 起業論特論			授業種別	春学期（週間授業）、秋学期（週間授業）		
担当教員	佐藤 勝尚			単位数	4		
その他担当者							
授業概要	本コースはアントレプレナーシップを体系的に検討する。事業機会の発見から事業の育成、そして刈り取りにいたるまで企業内外でアントレプレナーに必要なとされる知見を体系的に講義し、検討するものである。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3				
ディプロマポリシーとの関連性	◎						
授業の到達目標	①起業家精神のあり方を自己の思いで記述できる。 ②事業創造のあり方を詳細に経営機能との関わりで解説できる ③起業という観点より知的資本、インキュベーションの課題を提示できその解決方法を説明できる。 ④ベンチャー企業の特徴を事例を通して解説できる。						
テキスト（教科書）	①『アントレプレナーシップ』日経BP社 ②『イノベーションとベンチャー企業』野中郁次郎他 八千代出版 ③『イノベーション創出の経営学』藤末健三他 白桃書房 ④その他、プリントを配布する。						
参考書および参考文献	適宜、必要文献を紹介する。						
受講条件	なし						
事前・事後学習（内容・時間）	①予習・復習の内容（各コマあたり合計2時間） ・指定した教科書を事前に熟読しておくこと ・講義において、講義内容をまとめておくこと ②日経ビジネスが図書館にあるのでそれに目を通しておくこと。						
成績評価	授業の到達目標に対する達成度						
評価項目	割合			評価基準			
中間試験	30%			講義内容の理解度			
定期試験	40%			講義内容の理解度			
課題レポート	30%			課題に対する適切度			
授業の実施方法と授業計画	授業計画 以下の内容を主にとりあげる。 第Ⅰ部 起業家精神と事業創造 1 起業のプロセス 2 起業家の成功とは 3 市場の機会とマーケティング1 4 市場の機会とマーケティング2 5 財務計画1 6 財務計画2 7 財務予測 8 ベンチャー・キャピタルとは 9 フランチャイズ 10 ハーベスティング 11 起業家とインターネット 12 ビジネスプランの事例研究1（グループワーク） 13 ビジネスプランの事例研究2（グループワーク） 14 ビジネスプランの基礎1 15 ビジネスプランの基礎2 第Ⅱ部 知的資本とインキュベーション 1 知的資本とは 2 企業の再編 3 企業価値評価 4 知的資本の考え方 5 知的資本の評価モデル 6 知的資本時代における企業モデル 7 アセットマネジメント 8 アセットの有効活用とベンチャー企業 9 ベンチャー・インキュベーション 10 日本のベンチャー・インキュベーションの課題 11 日米のベンチャー企業 12 中国のベンチャー企業 13 ベンチャーキャピタルの特徴と動向 14 中国のベンチャーキャピタル 15 中国のベンチャー企業の事例分析（グループワーク） ただし、受講学生の習熟度により授業計画を変更することがある なお、課題レポートを授業の節目、節目において課すので翌週提出すること。フィードバックは提出後に解説をする。						
ナンバリング	EIBM5009						

開講年度・開講学期	2020年度 春学期～秋学期		授業コード	50330				
科目	5033 税務会計特論		授業種別	春学期（週間授業）、秋学期（週間授業）				
担当教員	松岡 輝		単位数	4				
その他担当者								
授業概要	制度会計の一つである税務会計は、企業が課税所得および税額を税務当局に申告するための会計である。授業では、法人税法の規定及び判例等の学習を通じて、企業の課税所得及び税額の計算に関する理論と事務的取り扱いについて学んでいく。本授業はゼミ方式で実施する。							
ディプロマポリシー	DP1-1	DP1-2	DP1-3	DP2-1	DP2-2	DP3-1	DP3-2	
ディプロマポリシーとの関連性	◎							
授業の到達目標	企業は課税所得および税額を税務当局に申告する必要があることから、専門的職業人として活躍するためには税務会計の知識が不可欠であり、その知識を修得することは、学科の卒業認定・学位授与の方針「選択した主領域の学習と研究を通して得られる専門的職業人としての高度な知識と技術を有する。」に沿ったもので、その目的達成に向け、法人税法の規定及び判例等の学習を通じて、企業の課税所得および税額の計算に関する理論と実務的取り扱いに係る知識を修得することを当授業の到達目標とする。							
テキスト（教科書）	成道秀雄（監修）「現代税務会計論（第2版）」中央経済社 ISBN:978-4502304811 価格:3,000円（税抜） その他別途講義中に案内する。							
参考書および参考文献	適宜案内する。							
受講条件	単位取得を巡って、自己中心的で身勝手な言動を行い、講師に迷惑をかけること。							
事前・事後学習（内容・時間）	事前に講義テーマに関する文献等を予習し、授業で学んだ内容について再確認して知識を定着させる。テーマ報告者は資料等を作成する。（4時間相当）							
成績評価	授業の到達目標がどの程度達成できているかで評価する。欠席、遅刻、早退や劣悪な受講態度は減点の対象とする。							
評価項目	割合		評価基準					
授業での発表内容	50%		テーマに対するの理解度、考察力、発表内容が適切なものであるかを評価する。					
レポート	50%		適切な内容・記述になっているのかを評価する。					
授業の実施方法と授業計画	第 1 回 導入 第 2 回 企業利益と課税所得 第 3 回 確定決算主義 第 4 回 益金の額の範囲 第 5 回 損金の額の範囲 第 6 回 資本等取引 第 7 回 法人の区分 第 8 回 同族会社 第 9 回 益金の額の計算（1） 第 10 回 益金の額の計算（2） 第 11 回 益金の額の計算（3） 第 12 回 益金の額の計算（4） 第 13 回 棚卸資産の売上原価 第 14 回 減価償却資産の償却費（1） 第 15 回 減価償却資産の償却費（2） 第 16 回 繰延資産の償却費 第 17 回 引当金、準備金 第 18 回 役員給与、使用人給与 第 19 回 欠損金 第 20 回 交際費等 第 21 回 寄付金 第 22 回 評価額 第 23 回 有価証券の譲渡損益 第 24 回 非営利法人の税制 第 25 回 圧縮記帳制度 第 26 回 税額の計算（1） 第 27 回 税額の計算（2） 第 28 回 申告、納付、還付等 第 29 回 消費税の取扱い 第 30 回 税務会計総括 授業内でテーマ発表及びレポートについての質問や疑問等に対するフィードバックを適宜の態様で行う。 ただし、受講学生の習熟度のより、授業計画を変更することもある。							
ナンバリング								



開講年度・開講学期	2020年度 春学期～秋学期			授業コード	50350		
科目	5035 財務諸表特論			授業種別	春学期（週間授業）、秋学期（週間授業）		
担当教員	松岡 輝			単位数	4		
その他担当者							
授業概要	企業が外部の利害関係者に対して報告を行うための会計報告書が財務諸表である。本授業では、財務諸表の種類や意義、また作成のための各種ルールについて理解を深める。なお、本授業はゼミ方式により実施する。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3				
ディプロマポリシーとの関連性	◎						
授業の到達目標	企業は外部の利害関係者に対して報告を行うために財務諸表を作成する必要があることから、専門的職業人として活躍するためには財務諸表に関する知識が不可欠であり、その知識を修得することは、学科の卒業認定・学位授与の方針「選択した主領域の学習と研究を通して得られる専門的職業人としての高度な知識と技術を有する。」に沿ったもので、その目的達成に向け、財務諸表の種類や意義、また作成のための各種ルールなどの知識に加え、最近の論点に係る知識を修得することを当授業の到達目標とする。						
テキスト（教科書）	桜井久勝「財務会計講義（第20版）」中央経済社 ISBN: 978-4502302817 価格:3,800円（税抜）その他、適宜別途案内する。						
参考書および参考文献	適宜案内する。						
受講条件	単位取得を巡って、自己中心的で身勝手な言動を行い、講師に迷惑をかけること。						
事前・事後学習（内容・時間）	予習・復習の内容（4時間相当） 1. 事前に講義テーマに該当するテキストの内容を熟読する。 2. 授業で学んだ内容について、テキスト等を再確認して知識を定着させる。 3. テーマ報告者は資料等を作成する。						
成績評価	原則として毎回出席すること。授業の到達目標がどの程度達成できているかで評価する。なお、遅刻、早退や劣悪な受講態度は減点の対象とする。						
評価項目	割合		評価基準				
授業での発表内容	50%		テーマに対するの理解度、考察力、発表内容が適切なものであるかを評価する				
課題レポート	50%		適切な内容・記述になっているのかを評価する				
授業の実施方法と授業計画	第1回 イン트로ダクション 第2回 財務会計の機能 第3回 利益計算の仕組み 第4回 会計基準の必要性 第5回 企業会計原則 第6回 利益測定 第7回 資産評価 第8回 現金預金と有価証券 第9回 デリバティブとヘッジ会計 第10回 収益の認識 第11回 売上債権 第12回 棚卸資産と評価 第13回 有形固定資産と減価償却 第14回 リース会計 第15回 無形固定資産と繰延資産 第16回 引当金 第17回 負債 第18回 払込資本 第19回 獲得資本 第20回 損益計算書 第21回 貸借対照表 第22回 その他の財務諸表 第23回 連結財務諸表の概要 第24回 連結貸借対照表 第25回 連結損益計算書 第26回 連結株主資本等変動計算書 第27回 連結キャッシュ・フロー計算書 第28回 国際化と会計問題 第29回 外貨建取引の換算 第30回 財務諸表特論総括 授業内でテーマ発表及び課題レポートについての質問や疑問等に対するフィードバックを行う。ただし、受講学生の習熟度により、授業計画を変更することもある。						
ナンバリング	EIBM5016						

開講年度・開講学期	2020年度 春学期～秋学期			授業コード	50360		
科目	5036 租税法特論			授業種別	春学期（週間授業）、秋学期（週間授業）		
担当教員	松岡 輝			単位数	4		
その他担当者							
授業概要	租税は社会・経済生活に深く根ざしており、経済活動を行う上では、その活動に伴う租税の影響について常に意識する必要がある。 本授業では、租税に関する法規である租税法について、租税法序説、租税実体法、租税手続法、租税争訟法の分野を幅広く学んでいく。 なお、本授業はゼミ方式で実施する。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3				
ディプロマポリシーとの関連性	◎						
授業の到達目標	経済において租税は避けることができないものであることから、専門的職業人として活躍するためには租税法の知識が不可欠であり、その知識を修得することは、学科の卒業認定・学位授与の方針「選択した主領域の学習と研究を通して得られる専門的職業人としての高度な知識と技術を有する。」に沿ったもので、その目的達成に向け、租税法の基本原則、主要税法の概要、租税手続、争訟手続に係る知識を修得することを当授業の到達目標とする。						
テキスト（教科書）	金子宏「租税法 第22版」弘文堂 ISBN:9784335304767 価格：6,000円（税抜） 中里実ほか「租税判例百選 第6版」有斐閣 ISBN:9784641115293 価格：2,600円（税抜） その他、適宜に別途案内する。						
参考書および参考文献	適宜案内する。						
受講条件	単位取得を巡って、自己中心的で身勝手な言動を行い、講師に迷惑をかけること。						
事前・事後学習（内容・時間）	予習・復習の内容（4時間相当） 1. 事前に講義テーマに該当するテキストの内容を熟読する。 2. 授業で学んだ内容について、テキスト等を再確認して知識を定着させる。 3. テーマ報告者は資料等を作成する。						
成績評価	原則として毎回出席すること。授業の到達目標がどの程度達成できているかで評価する。 なお、遅刻、早退や劣悪な受講態度は減点の対象とする。						
評価項目	割合		評価基準				
授業での発表内容	50%		テーマに対しての理解度、考察力、発表内容が適切なものであるかを評価する				
課題レポート	50%		適切な内容・記述になっているのかを評価する				
授業の実施方法と授業計画	第1回 イン트로ダクション 第2回 租税の意義 第3回 租税法の意義と特色 第4回 租税制度の発達 第5回 租税法律主義 第6回 租税公平主義 第7回 自主財政主義 第8回 租税法の法源と効力 第9回 租税法の解釈と適用 第10回 課税要件総論 第11回 所得税総説 第12回 所得税制度の基本的仕組 第13回 各種所得の意義と範囲 第14回 収入金額と必要経費 第15回 所得税額の計算 第16回 法人税総説 第17回 法人所得の意義と計算 第18回 益金の額の計算 第19回 損金の額の計算 第20回 租税手続法総論 第21回 租税確定手続 第22回 税務調査 第23回 納付と徴収 第24回 滞納処分総論 第25回 滞納処分各論 第26回 異議申立・再調査の請求 第27回 審査請求 第28回 租税訴訟 第29回 租税処罰法 第30回 租税法特論総括 授業内でテーマ発表及び課題レポートについての質問や疑問等に対するフィードバックを行う。 ただし、受講学生の習熟度により、授業計画を変更することもある。						
ナンバリング	EIBM5013						

開講年度・開講学期	2020年度 春学期～秋学期		授業コード	50400				
科目	5040 財務会計特論		授業種別	春学期（週間授業）、秋学期（週間授業）				
担当教員	氏原 茂樹		単位数	4				
その他担当者								
授業概要	財務会計の特質について究明したい。財務会計の領域は、理論的基礎概念を学んだあとに、会計制度の特徴について学ぶことになる。会計制度は、日本の会計基準のみならず、国際会計基準の内容について学び、現代的課題を議論したい。							
ディプロマポリシー	DP1-1	DP1-2	DP1-3	DP2-1	DP2-2	DP3-1	DP3-2	
ディプロマポリシーとの関連性								
授業の到達目標	財務会計の特質について、理論と制度の両面から検討を加えたい。なお、財務会計は、その前提として財務諸表作成の知識が身につけていることが望まれる。							
テキスト（教科書）	授業時に指示したい。							
参考書および参考文献	必要な資料は、授業時に配布したい。参考文献は、必要に応じて紹介したい。							
受講条件	特になし。							
事前・事後学習（内容・時間）	①授業前に関係資料等を読むこと、30分。 ②授業後の復習、60分。 ③事前の調べ学習等、120分。 ④定期的試験、120分。 常に、簿記や会計の専門書、専門雑誌及び論文等を広範囲に読んでおくこと。							
成績評価	提出物の内容、学習成果の発表内容、授業中の質疑応答の状況、定期的な試験評価、授業中の学習意欲等に拠る。							
評価項目	割合		評価基準					
定期的な試験	50%		筆記試験にて理解度を確認します。					
課題レポート等	50%		課題等の内容について確認します。					
授業の実施方法と授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 財務会計の研究対象 第3回 財務会計の範囲 第4回 会計基準の設定主体と設定プロセス 第5回 財務会計理論の全体 第6回 静態論と動態論 第7回 会計基準と会計制度の関係 第8回 会計基準とコンバージェンス 第9回 日本の会計制度 第10回 収益費用アプローチと資産負債アプローチ 第11回 利益計算構造の変遷 第12回 利益概念の変遷 第13回 米国会計基準 第14回 国際会計基準 第15回 連結財務諸表 第16回 リース会計 第17回 資産会計論 第18回 金融商品会計 第19回 負債会計 第20回 退職給付会計 第21回 純資産会計 第22回 資本金会計 第23回 評価・換算差額等 第24回 新株予約権 第25回 株主資本等変動計算書と包括利益 第26回 損益計算書と包括利益計算書 第27回 収益の認識と測定 第28回 費用の認識と測定 第29回 キャッシュフロー計算書 第30回 まとめ							
ナンバリング								

開講年度・開講学期	2020 年度 春学期～秋学期			授業コード	50510		
科目	5051 経営システム工学特論			授業種別	春学期（週間授業）、秋学期（週間授業）		
担当教員	今井 正文			単位数	4		
その他担当者							
授業概要	企業の経営プロセスにおいて、適確なる行動をとる為には適確な意思決定をしなければならない。その為、適確な経営情報を取得する最適化の方法の理解と把握を目的とする。システム工学を中心に解説していく。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3				
ディプロマポリシーとの関連性	◎						
授業の到達目標	ディプロマポリシーの中から、「選択した主領域の学習と研究を通して得られる専門的職業人としての高度な知識と技術を有する。」に沿って、本科目の到達目標を以下のとおりとする。 ・システム工学の基礎と基礎的な各種最適化の方法を理解する。 ・上記を前提とした応用レベルの最適化手法について理解する。 ・データを用いた演習から理論から実践への注意点を理解する。						
テキスト（教科書）	特に指定しない。						
参考書および参考文献	1 西川智登・清水静江「経営のためのシステム工学」, 朝倉書店 2 社会科学の数理「ファジイ理論入門」, 菅華房 3 合原一幸「ニューロ・ファジイ・カオス」, オーム社 4 山口昌哉「カオス入門」, 朝倉書店 5 倉都「カオスで挑む金融市場」, 講談社						
受講条件	特に設定しないが、線形数学などの基礎程度の数学の理解を前提とする。						
事前・事後学習（内容・時間）	各回の内容について、配布資料に目を通し、課題をやっておくようにしてください（各回 90 分）。各回の提出された課題について、修正指示をだすので、授業後に修正して再提出してください（各回 60 分）。						
成績評価	成績は、課題についてのレポートの提出内容：100%によって評価します。						
評価項目	割合	評価基準					
課題レポート	100%	提出内容によって評価します。					
授業の実施方法と授業計画	<p>全体の講義は PowerPoint を使用。事例や例題を中心に解説。講義資料は毎回配布。適宜レポート提出を要求。各テーマ演習を併用する。</p> <p>第 1 回 (テーマ)：経営システム工学特論の概論 (内 容)：システム工学の体系は、制御工学、情報工学、マネージメント・エンジニアリング、取り扱う対象プロジェクトに必要な工学、を基本としている。その中心はシステム解析である。従って、これら関連性を述べる。</p> <p>第 2 回 (テーマ)：複雑性システムと computing (内 容)：複雑性に対する Precise models による Hard computing と Approximate models による Soft computing について最近の状況に触れ、数理モデルの意義と自己組織化の重要性について述べる。</p> <p>第 3 回 (テーマ)：最適化 (内 容)：最適化の手法と問題解決についてシステム解析との関連性から述べる。</p> <p>第 4 回 (テーマ)：システムの同定 (内 容)：複雑システムをモデル化する場合の基本的な考え方及び方法について示す。</p> <p>第 5 回 (テーマ)：線形計画法 (内 容)：感度分析と意思決定</p> <p>第 6 回 (テーマ)：ネットワーク・システム (内 容)：PERT、CPM による時間短縮</p> <p>第 7 回 (テーマ)：ネットワーク・システム (2) (内 容)：最短経路・最大流量問題</p> <p>第 8 回 (テーマ)：動的計画法 (DP) (内 容)：動的計画法とその応用、現代制御理論への応用</p> <p>第 9 回 (テーマ)：システムの安定性 (内 容)：システムの安定性の考え方について、リヤプノフの方法を中心に述べる。第 10 回 (テーマ)：オブザーバ (内 容)：オブザーバとカルマン・フィルタとの関係を明確にし、応用を述べる。</p> <p>第 11 回 (テーマ)：適応型 GMDH による予測 (内 容)：Soft computing の方法の 1 つである GMDH の手法が、時系列データの予測に対して頑健性がある事を考察する。</p> <p>第 12 回 (テーマ)：直接的指数平滑法の繰り返し計算法 (内 容)：直接的指数平滑法は、計算が簡潔であると同時に、フィルタ特性を有する事をのべる。</p> <p>第 13 回 (テーマ)：自己組織化モデル (内 容)：自己組織化モデルの示す解軌道の動特性、リヤプノフ指数、及び最近の新しい方法等から、自己組織化の達成度について、述べる。</p> <p>第 14 回 (テーマ)：カオス概論 (内 容)：カオスの存在、発生、特性、利用形態、等について述べる。</p> <p>第 15 回 (テーマ)：カオス時系列データの予測 (1) (内 容)：カオス時系列データに対する再構成空間の適用について述べる。</p> <p>第 16 回 (テーマ)：カオス時系列データの予測 (2) (内 容)：カオス時系列データに対するニューロコンピューティング・遺伝的アルゴリズムの適用について述べる。</p> <p>第 17 回 (テーマ)：感性情報の処理 (内 容)：人間の感性情報の処理の方法とその具体的な事例について、ファジイ・エントロピーモデルを適用してのべる。</p> <p>第 18 回 (テーマ)：経済適応過程 (内 容)：資本の株式への投資による便益特性から、R. E. Murphy のエントロピーの概念を適用し、現実の経済活動の行動原理を考察する。</p> <p>第 19 回～30 回 講義内容について演習を行う。 各回の課題・レポートについては、修正指示をフィードバックするので各自で修正して再提出すること。授業内外での質問等には毎回の授業でフィードバックを行う。</p>						
ナンバリング	E1CM1001						



開講年度・開講学期	2020年度 春学期～秋学期			授業コード	50530		
科目	5053 ディジションメイキング特論			授業種別	春学期（週間授業）、秋学期（週間授業）		
担当教員	今井 正文			単位数	4		
その他担当者							
授業概要	企業の経営プロセスにおいて、適確なる行動をとる為には適確な意思決定をしなければならない。この講義では、その為の適確な経営情報を取得する最適化の方法の理解と把握を中心に述べていく。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3				
ディプロマポリシーとの関連性							
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意思決定論の基礎と基礎的な各種最適化の方法を理解する。</li> <li>・上記を前提とした応用レベルの最適化手法について理解する。</li> <li>・データを用いた演習から理論から実践への注意点を理解する。</li> </ul>						
テキスト（教科書）	特に指定しない。 各回の資料を配布します。						
参考書および参考文献	1 中島「意思決定入門」日系文庫 2 林「意思決定の基礎」朝倉書店 3 社会科学の数理「ファジ理論入門」華房 4 宮沢「経済分析と決定理論」東洋経済 5 倉都「カオスで挑む金融市場」講談社						
受講条件	特に設定しないが、線形数学などの基礎程度の数学の理解を前提とする。						
事前・事後学習（内容・時間）	各回の内容について、配布資料に目を通し、課題をやっておくようにしてください（各回 90 分）。各回の提出された課題について、修正指示をだすので、授業後に修正して再提出してください（各回 90 分）。						
成績評価	成績は、課題についてのレポートの提出内容によって評価します。						
評価項目	割合		評価基準				
課題レポート	100%		提出内容によって評価します。				
授業の実施方法と授業計画	第 1 回 (テーマ)：経営システム工学特論の概論 (内 容)：一般に最適な意思決定の基本的情報・知識を得る方法は、最適化手法が要求される。このコースでは、数理的な理論は、最小限に止め、手法の結果を中心に講義する。原則として各テーマについて、講義と演習を行う。 第 2, 3 回 (テーマ)：マネジメントにおける意思決定 (内 容)：マネジメントに要求される意思決定のプロセスと問題解決のプロセス。 第 4, 5 回 (テーマ)：意思決定の原理 (内 容)：意思決定の基本として、意思決定の原理を述べる。 第 6, 7 回 (テーマ)：AHP (Analytical Hierarchy Process) における意思決定 (内 容)：数学的な手法を適用しない意思決定として有効性が高く、意思決定者の判断基準を考慮した優れた意思決定手法を事例と共に解説する。 第 8, 9 回 (テーマ)：感度分析の効用 (内 容)：利益、数量、などの資源配分に関する計画変更を適切に行う方法の決定について、シンプレックス法を使用して考察する。 第 10, 11 回 (テーマ)：多目的計画と AHP (内 容)：意思決定の目的が、1つでなく多目的である時、目的の整合性を取り最適化する場合を考察する。 第 12, 13 回 (テーマ)：Bayesian 意思決定 (内 容)：Bayesian Approach を適用し、意思決定者の持つ主観的情報を客観的情報に変換する情報修正の方法を考察する。 第 14, 15 回 (テーマ)：階層化意思決定 (内 容)：Interpretive Structural Modeling を適用して、意思決定者が階層構造をより客観的な方法で最適構造を決定する事を考察する。 第 16, 17 回 (テーマ)：不測事態に対処する問題解決 (内 容)：経営システムにおける Contingency planning 方法により、どのように問題を解決するかそのアルゴリズムを学習する。 第 18, 19 回 (テーマ)：観測データの処理 (内 容)：マルコフチェンを適用したネットワーク上の最適ルート決定を考察する。 第 20, 21 回 (テーマ)：時間の計画 (内 容)：プロジェクトにおける所要時間の短縮方法について考察する。 第 22, 23 回 (テーマ)：複雑性と soft computing (内 容)：複雑なシステムを現象と把握し、それを解決する最近の方法について、soft computing を適用するモデル化が hard computing による方法よりする有効性が大きい事を考察する。 第 24, 25 回 (テーマ)：Data mining (内 容)：多くのデータ群から情報としての知見を得る方法として、Data mining の適用を述べる。 第 26, 27 回 (テーマ)：対象システムの機能評価 (内 容)：対象製品に関する機能を評価し、その価値決定のアプローチについて事例から考察する。 第 28, 29 回 (テーマ)：意思決定と数学モデル (内 容)：数学モデルの意思決定における有効性について、computer との役割の関連性について解説 第 30 回 (テーマ)：まとめ (内 容)：意思決定と意思決定者の判断構造について 各回の課題・レポートについては、修正指示をフィードバックするので各自で修正して再提出すること。授業内外での質問等には毎回の授業でフィードバックを行う。						
ナンバリング	E1BM5003						



開講年度・開講学期	2020 年度 春学期～秋学期			授業コード	50570		
科目	5057 情報処理特論			授業種別	春学期（週間授業）、秋学期（週間授業）		
担当教員	見目 喜重			単位数	4		
その他担当者							
授業概要	<p>ビジネスの世界では、企業内の事務管理を始め、商品管理情報、マーケット分析など多種多様の情報が取り扱われている。これらの情報をいかに効率的かつ合理的に取り扱い、活用できるのかが重要である。そうした中で大きな役割を果たすのがデータベースである。</p> <p>本講義では、まず、データベースのビジネス社会における役割・位置付けを紹介するとともに、データベース管理システムについて解説する。次に、データベース設計手法について重要なポイントを解説する。その後、データ操作言語（SQL）によるデータベースの作成法、データの選択法について実習を交えながら解説する。また、データベースの活用法として、PL/SQL や Oracle HTML DB の基本的な使用方法を紹介するとともに、実際に簡単なデータベース・システムを構築し、データ処理におけるデータベースの活用方法を修得する。</p>						
ディプロマポリシー	DP1-1	DP1-2	DP1-3	DP2-1	DP2-2	DP3-1	DP3-2
ディプロマポリシーとの関連性	◎			○			
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的なデータベース・システムの設計ができる。</li> <li>データ操作原語（SQL）を活用して、データベースの作成・データの選択ができる。</li> <li>PL/SQL を用いて、より高度なデータ処理ができる。</li> </ul>						
テキスト（教科書）	必要に応じて資料を配付する。						
参考書および参考文献	講義の中で適宜紹介する。						
受講条件	特になし。						
事前・事後学習（内容・時間）	<p>講義の中で出される課題を実習することで、実際の使用方法に親しむよう取り組むこと。各回の授業内容を配付資料を基に再確認するとともに、授業内で提示される演習課題に取り組むこと（90分程度×30回）。</p> <p>また、日常的に SQL 文を作成し、データベースに慣れ親しむことが望まれる。</p>						
成績評価	課題レポート（50%）と定期試験（筆記試験、50%）により評価する。						
評価項目	割合		評価基準				
課題レポート	50%		課題に対して適切な内容になっているかを確認する。				
定期試験	50%		筆記試験にて理解度を確認する。				
授業の実施方法と授業計画	<p>前半</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>（講義）ビジネス社会におけるデータベースの役割（データベースの概要）</li> <li>（講義）データベース管理システムの概要</li> <li>（講義）データベースの設計方法－1</li> <li>（演習）データベースの設計方法－2</li> <li>（講義）データベースの設計実習－1</li> <li>（演習）データベースの設計実習－2</li> <li>（演習）データベースの設計実習－3（プレゼンテーション）</li> <li>（講義）SQL（条件に適合したデータの抽出）</li> <li>（講義）SQL（単一関数、グループ関数の利用）</li> <li>（講義）SQL（複数の表の関連づけ、副問い合わせ）</li> <li>（講義）SQL（問い合わせ結果の結合）</li> <li>（講義）SQL（表の作成）</li> <li>（講義）SQL（仮想表の作成）</li> <li>（講義）SQL（制約の設定）</li> <li>（講義）SQL（トランザクション制御）</li> </ol> <p>後半</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>（講義）PL/SQL の概要</li> <li>（講義）PL/SQL における変数の宣言方法</li> <li>（講義）PL/SQL の実効文の作成</li> <li>（講義）PL/SQL によるデータベース・サーバーの操作</li> <li>（講義）PL/SQL による制御構造の作成（IF-THEN-ELSE）</li> <li>（講義）PL/SQL による制御構造の作成（CASE 式）</li> <li>（講義）PL/SQL による複合データ型の処理</li> <li>（講義）PL/SQL の明示カーソル</li> <li>（講義）PL/SQL による例外処理（エラー処理）</li> <li>（講義）Oracle HTML DB の概要</li> <li>（演習）Oracle HTML DB によるアプリケーションの作成</li> <li>（演習）Oracle HTML DB におけるアプリケーション・コンポーネントの構築</li> <li>（演習）データベース・システムの構築演習（システム的设计）</li> <li>（演習）データベース・システムの構築演習（アプリケーションの開発）</li> <li>（演習）データベース・システムの構築演習（システムの稼働）（プレゼンテーション）</li> </ol> <p>※課題レポートの内容については、授業内で質問・疑問等に対するフィードバックを行う。 ※受講学生の習熟度により授業計画を変更することもある。</p>						
ナンバリング							

開講年度・開講学期	2020 年度 春学期～秋学期			授業コード	50590		
科目	5059 ネットワークシステム特論Ⅱ			授業種別	春学期（週間授業）、秋学期（週間授業）		
担当教員	今井 正文			単位数	4		
その他担当者							
授業概要	企業の経営プロセスにおいて、情報ネットワークは不可欠な存在となっており、ネットワークに関する知識および技術は非常に重要なものとなっています。この講義では、シスコネットワークアカデミープログラムを通して、コンピュータおよびネットワークの知識を深めます。CCNP3 カリキュラムを実施し CCNP3 (CISCO Certified Network professional, BCMSN) 程度の知識の修得を目指します。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3				
ディプロマポリシーとの関連性							
授業の到達目標	企業の経営プロセスにおいて、情報ネットワークは不可欠な存在となっており、ネットワークに関する知識および技術は非常に重要なものとなっています。この講義では、シスコネットワークアカデミープログラムを通して、コンピュータおよびネットワークの知識を深めます。CCNP3 カリキュラムを実施し CCNP3 (CISCO Certified Network professional, BCMSN) 程度の知識の修得を目指します。						
テキスト（教科書）	特に指定しない。						
参考書および参考文献	1 Richard Froom, Balaji Sivasubramanian, Erum Frahim, Authorized Self-Study Guide: Building Cisco Multilayer Switched Networks (BCMSN), Cisco Systems 2 David Hucaby, シスコ技術者認定公式ガイド CCNP【BCMSN】編（試験番号：642-812J）, 翔泳社						
受講条件	特に設定しないが、CCNA 合格程度の知識を前提とします。また、教材および試験等は全て英語です。注意してください。						
事前・事後学習（内容・時間）	各回の内容について、配布資料に目を通し、課題をやっておくようにしてください（各回 90 分）。各回の提出された課題について、修正指示をだすので、授業後に修正して再提出してください（各回 90 分）。						
成績評価	成績評価はオンライン試験：50%と実技試験：50%によって評価します。						
評価項目	割合	評価基準					
オンライン試験	50%	オンライン試験によって理解度を評価する					
実技試験	50%	課題に対して適切な設定内容・結果として正常な動作になっているかで評価する					
授業の実施方法と授業計画	<p>全体の講義は Web 教材、PowerPoint を使用。実習資料は初回講義時に配布、講義資料は適宜配布します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 Module 1: Network Requirements</li> <li>2 Lab Exercises</li> <li>3 Module Exam</li> <li>4 Module 2: Defining VLANs</li> <li>5 Lab Exercises</li> <li>6 Module Exam</li> <li>7 Module 3: Implementing Spanning Tree</li> <li>8 Lab Exercises</li> <li>9 Module Exam</li> <li>10 Module 4: Implementing Inter-VLAN Routing</li> <li>11 Lab Exercises</li> <li>12 Module Exam</li> <li>13 Module 5: Implementing High Availability in a Campus Environment</li> <li>14 Lab Exercises</li> <li>15 Module Exam</li> <li>16 Module 6: Wireless LANs</li> <li>17 Lab Exercises</li> <li>18 Module Exam</li> <li>19 Module 7: Configuring Campus Switches to Support Voice</li> <li>20 Lab Exercises</li> <li>21 Module Exam</li> <li>22 Module 8: Minimizing Service Loss and Data Theft in a Campus Network</li> <li>23 Lab Exercises</li> <li>24 Module Exam</li> <li>25 Case Study 1 VLANs, VTP and Inter-VLAN routing</li> <li>26 Case Study 2 Voice and Security in a Switched Network</li> <li>27 Online Test Exercises</li> <li>28 Final Exam</li> <li>29 Skill Exam Exercises</li> <li>30 Skill Exam</li> </ol> <p>各回の演習については、電子資料で配布し作業してもらうので、毎回必ず iPad やノート PC 等を持参すること。修正指示をフィードバックするので各自で修正して再提出すること。Web テスト、授業内外での質問等には毎回の授業でフィードバックを行う。</p>						
ナンバリング							

開講年度・開講学期	2020年度 春学期～秋学期			授業コード	50710			
科目	5071 特別研究 I			授業種別	春学期（週間授業）、秋学期（週間授業）			
担当教員	中野 聡			単位数	4			
その他担当者								
授業概要	この授業では、近年の多様な資本主義論の系譜を読み進めながら、先進資本主義諸国の戦後体制と1980年代以降の社会経済体制の変化を考察する。その際、各国間の類似性と多様性に留意しつつ、特に以下の諸点を考察する。①戦後体制の基幹要素とその差異、②ネオリベラル（新自由主義的）構造改革の影響、特に、③経済政策のあり方、④サプライサイド改革のあり方（民営化や民間セクターの拡大を含む）、⑤コーポレートガバナンスのあり方、⑥コーポラティズムと労働市場規制の形態と機能、⑦福祉国家の形態と機能。受講者は、これらの中から特定テーマを選択し、または各自が関心をもつテーマを特定し、考察を現代社会経済史の論文としてまとめる。なお、テキストはほぼ全てが英文となり、担当者の専攻（現代ヨーロッパ経済史・社会史）から欧州の事例を多く扱う。							
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3					
ディプロマポリシーとの関連性		◎	◎					
授業の到達目標	① 戦後体制とその変化の大枠ならびに背景を理解すること。 ② 戦後体制の特定要素の変化に関して、十分な理解を獲得すること。 ③ 戦後体制の諸要素の、新たな社会経済的環境への適応と変化を独自の視点で考察すること。							
テキスト（教科書）	以下のテキスト以外は、授業中に指示する。 Bob Hancke ed., (2009) Debating Varieties of Capitalism: A Reader, Oxford: Oxford University Press.							
参考書および参考文献								
受講条件	社会科学の学習、特に社会システムの国際比較に関心があること。							
事前・事後学習（内容・時間）	日ごろから新聞報道に接すること。また、授業までにテキストの指定箇所を講読しておくこと。各回2時間程度が想定される。							
成績評価	授業参加と期末レポートにより評価する。							
評価項目	割合			評価基準				
授業参加	40%			洋書講読の予習と内容理解				
期末論文	60%			論文としての適切性				
授業の実施方法と授業計画	授業で学ぶ内容を期末レポートに利用できるよう、テキストの講読、理解や論点の確認、ディスカッション、要約ノートを作成を中心に進める。上記テキスト（以下に概要記載）終了後、他の同一または類似テーマの文献の講読を行う。進度は、履修者の修学状況に合わせて調整する。 - Introduction - Typologies of Capitalism  - Institutional Change in Advanced Political Economy - Varieties of Capitalism and Institutional Complementarities in the Political Economy - Institutional Coherence and Macroeconomic Performance - Can High-Technology Industries Prosper in Germany? - Empirical Evidence Against Varieties of Capitalism's Theory of Technological Innovation - Institutional Change in Varieties of Capitalism  - Beyond Varieties of Capitalism							
ナンバリング	E1EM5001							

開講年度・開講学期	2020 年度 春学期～秋学期			授業コード	50711		
科目	5071 特別研究 I			授業種別	春学期（週間授業）、秋学期（週間授業）		
担当教員	佐藤 勝尚			単位数	4		
その他担当者							
授業概要	<p>現代の企業競争は企業が顧客に提供する商品やサービスの競争から、それら商品やサービスといった価値を顧客に届ける仕組み（ビジネス・システムあるいは事業システムという）の競争に移ってきている。すなわち、事業構造の仕組みと共に商品やサービスを開発・研究する仕組み、生産の仕組み、販売や MKG の仕組み、流通・ロジスティクスの仕組み、アフターサービスの仕組み、人材資源開発・管理の仕組み、さらにそれらを相互に調整する、などをベースとしたマネジメントの仕組みとこれらの運用の仕組みの競争であるといえる。</p> <p>この特別研究 I では、このような事業システムが経営戦略とのかかわりの中でどのように構築され、それらがどのような競争優位性を持っているかを分析、考究するための研究の基盤を作る上げることが目的としている。</p>						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3				
ディプロマポリシーとの関連性		◎	◎				
授業の到達目標	<p>①経営戦略と事業戦略に関する事項を説明できる          ②事業システムの分析と設計に関する事項を説明できる          ③経営戦略・事業戦略・事業システムの知見を修士論文作成に反映させることができる</p>						
テキスト（教科書）	<p>①『競争戦略論』 青島 矢一 加藤 俊彦 一橋ビジネスレビューブックス ¥2,520          ②『事業システム戦略』 加護野忠雄他 有斐閣アルマ ¥2,250</p>						
参考書および参考文献	論文執筆における、必要文献を適宜紹介する。						
受講条件	日経新聞を読むこと。いろいろな企業が現在どのような企業行動をとっているか、なぜそのような行動をとるのかをかんがえること。						
事前・事後学習（内容・時間）	経営学関係の書籍を紹介するので、受講する学生は事前に研究室にくること。						
成績評価	テストおよび発表の内容を総合的に評価する。						
評価項目	割合			評価基準			
課題レポート	60%			課題に対する内容の適切度			
中間試験	20%			講義内容の理解度			
定期試験	20%			講義内容の理解度			
授業の実施方法と授業計画	<p>授業計画 事業システムを考究するために、主に上記テキストを使用して学習する。レポートと文献調査を合わせて課する。また、必要に応じて学習プリントを配布する。</p> <p>I 部 経営戦略の基礎</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 イントロダクションー研究とは、その進め方</li> <li>2 経営戦略とは</li> <li>3 競争戦略の4つのアプローチ</li> <li>4 ポジショニング・アプローチ</li> <li>5 ポートフォリオ分析の方法</li> <li>6 資源アプローチ</li> <li>7 ゲーム・アプローチ</li> <li>8 学習アプローチ</li> <li>9 複眼的戦略アプローチの応用</li> <li>10 戦略思考のバランス</li> <li>11 企業の多角化</li> <li>12 企業の多角化</li> <li>13 企業の国際化</li> <li>14 企業の成長、組織と戦略</li> <li>15 ネットワーク外部性と競争戦略</li> <li>16 全社戦略</li> <li>17 戦略の失敗</li> </ol> <p>II 部 事業システム戦略</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>18 事業の仕組み</li> <li>19 事業システムの設計</li> <li>20 事業システムの評価基準</li> <li>21 事業コンセプトの事例</li> <li>22 事業コンセプトの設計</li> <li>23 事業システムの設計の原理ー規模・範囲・速度。外部化の経済</li> <li>24 事業システムの分析の方法</li> <li>25 事業システムの経済分析</li> <li>26 経営理念と組織文化</li> <li>27 事業の活動システムーポーターの活動システム</li> <li>28 価値創造の条件ー情報からの価値の創造</li> <li>29 事業システムの維持と発展</li> <li>30 事業システムの分析の方法</li> <li>31 修士論文作成の注意点</li> </ol> <p>ただし、受講生の習熟度により授業計画を変更することがある</p>						
ナンバリング	E1EM5001						

開講年度・開講学期	2020年度 春学期～秋学期			授業コード	50714		
科目	5071 特別研究 I			授業種別	春学期（週間授業）、秋学期（週間授業）		
担当教員	今井 正文			単位数	4		
その他担当者							
授業概要	この特別研究では、経営活動の各過程を経営システムにおいて発生する諸現象を従来のシナジェティクスの理論に加えて、システム工学や、ソフト・コンピューティングによる理論を適用して、システムの目的を達成する最適化のための自己組織化モデル構築の研究を行う。更にこれにより、経営活動における意思決定の指針を導出する研究を行う。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3				
ディプロマポリシーとの関連性		◎	◎				
授業の到達目標	ディプロマポリシーの中から、「修士論文に関する高度な知識と技能を有する。」「創造性と専門性を発揮し、経営諸問題の解決能力と意思決定能力を有する。」に沿って、本科目の到達目標を以下のとおりとする。 ソフトコンピューティングの基礎である、ニューロコンピューティング、遺伝的アルゴリズム、ファジィ理論、カオス理論、自律エージェントシステムなどの理論について理解し、論文作成の基礎知識を身に付けることを目標とする。						
テキスト（教科書）	特に指定しない。						
参考書および参考文献	学生本人の従来の研究、研究計画等に応じて指示する。						
受講条件	特に設定しないが、線形数学などの基礎程度の数学の理解を前提とする。コンピュータシミュレーション等を中心に行うので、関連する知識があることが望ましい。						
事前・事後学習（内容・時間）	各回の内容について、配布資料に目を通し、課題をやっておくようにしてください（各回 90 分）。各回の提出された課題について、修正指示をだすので、授業後に修正して再提出してください（各回 90 分）。						
成績評価	課題についてのレポートの提出内容：100%によって評価します。						
評価項目	割合	評価基準					
課題レポート	100%	提出内容によって評価します。					
授業の実施方法と授業計画	<p>全体の講義は配布資料、PowerPoint を使用して事例や例題を中心に解説し、演習を行う。適宜レポート提出を要求する。        &lt;各回のテーマ / 内容 / 課題&gt;</p> <p>第 1 回        (テーマ) : ガイダンス        (内 容) : 修士論文作成上の注意とスケジュールについて</p> <p>第 2 回        (テーマ) : 個別テーマ決定のための講義 (ソフトコンピューティングとは)        (内 容) : ソフトコンピューティングの概略について述べる</p> <p>第 3 回        (テーマ) : 個別テーマ決定のための講義 (遺伝的アルゴリズム入門)        (内 容) : 遺伝的アルゴリズムの概略について述べる</p> <p>第 4 回        (テーマ) : プログラミング演習</p> <p>第 5 回        (テーマ) : 個別テーマ決定のための講義 (ニューラルネットワーク入門)        (内 容) : ニューラルネットワークの概略について述べる</p> <p>第 6 回        (テーマ) : プログラミング演習</p> <p>第 7 回        (テーマ) : 個別テーマ決定のための講義 (ニューラルネットワーク応用)        (内 容) : ニューラルネットワークの実装と問題点について述べる</p> <p>第 8 回        (テーマ) : プログラミング演習</p> <p>第 9 回        (テーマ) : 個別テーマ決定のための講義 (GA- ニューロ入門)        (内 容) : GA- ニューロの概略について述べる</p> <p>第 10 回        (テーマ) : プログラミング演習</p> <p>第 11 回        (テーマ) : 個別テーマ決定のための講義 (GA- ニューロ応用 1)        (内 容) : GA- ニューロの簡単な実装法について</p> <p>第 12 回        (テーマ) : プログラミング演習</p> <p>第 13 回        (テーマ) : 個別テーマ決定のための講義 (GA- ニューロ応用 2)        (内 容) : GA- ニューロの各種実装法と問題点について</p> <p>第 14 回        (テーマ) : プログラミング演習</p> <p>第 15 回        (テーマ) : これまでのまとめ</p> <p>第 16 回        (テーマ) : 個別テーマ決定のための講義 (カオス入門 1)        (内 容) : カオスの概略について述べる</p> <p>第 17 回        (テーマ) : プログラミング演習</p> <p>第 18 回        (テーマ) : 個別テーマ決定のための講義 (カオス入門 2)        (内 容) : システム工学とカオス理論の関係について</p> <p>第 19 回        (テーマ) : プログラミング演習</p> <p>第 20 回        (テーマ) : 個別テーマ決定のための講義 (カオス入門 3)        (内 容) : 現実問題とカオスの関係について概略を述べる</p> <p>第 21 回        (テーマ) : プログラミング演習</p> <p>第 22 回        (テーマ) : 個別テーマ決定のための講義 (カオス応用 1)        (内 容) : カオス特性の指標となる関数について</p> <p>第 23 回        (テーマ) : プログラミング演習</p> <p>第 24 回        (テーマ) : 個別テーマ決定のための講義 (カオス応用 2)        (内 容) : カオス特性をもつ実データに対する取り扱いについて</p> <p>第 25 回        (テーマ) : プログラミング演習</p> <p>第 26 回        (テーマ) : 個別テーマ決定のための講義 (カオス応用 3)        (内 容) : マルチエージェントシステムとカオスについて</p> <p>第 27 回        (テーマ) : プログラミング演習</p> <p>第 28 回        (テーマ) : 個別テーマに関する打ち合わせ</p> <p>第 29 回        (テーマ) : 個別テーマ決定及び研究スケジュールの調整</p> <p>第 30 回        (テーマ) : 研究スケジュールの決定        各回の課題・レポートについては、修正指示をフィードバックするので各自で修正して再提出すること。授業内外での質問等には毎回の授業でフィードバックを行う。</p>						
ナンバリング	E1EM5001						



開講年度・開講学期	2020年度 春学期～秋学期			授業コード	50715			
科目	5071 特別研究 I			授業種別	春学期（週間授業）、秋学期（週間授業）			
担当教員	見目 喜重			単位数	4			
その他担当者								
授業概要	<p>地球温暖化、石油価格の高騰などを背景に、企業活動におけるエネルギー・環境問題への取組の必要性が改めて認識されている。そうした流れを背景として、本特別研究では、公共施設や民生施設における再生可能エネルギー利用や、企業活動・ビジネスにおける環境・エネルギー政策の省エネルギー効果ならびに経済性を検討する。</p> <p>研究を進めるにあたっては、システムのエネルギーフローモデルの構築、経済性・エネルギー需給制約下でのシステムの最適運用モデルの構築が求められる。そのために、数理計画法の基礎知識、ソフトコンピューティングによる計算モデルの構築法、効率的なデータ処理のためのプログラミング手法およびデータベースの活用法を修得する。</p> <p>また、修士論文の作成を通して研究の進め方、プレゼンテーション手法の修得を目指す。さらに、研究の実施、その成果報告とディスカッションといった一連の活動を通して、学びにおけるPDCAを実践する。</p>							
ディプロマポリシー	DP1-1	DP1-2	DP1-3	DP2-1	DP2-2	DP3-1	DP3-2	
ディプロマポリシーとの関連性	○			◎		◎		
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本のエネルギー・環境問題とその取組について説明できる。</li> <li>・システムのエネルギーフローモデルの構築、経済性・エネルギー需給制約下でのシステムの最適運用モデルを構築するために、ソフトコンピューティングやデータベースを活用できる。</li> <li>・計算モデルを構築して、結果に対してより定量的な考察ができる。</li> <li>・課題の内容を論理的に説明するプレゼンテーションができる。</li> </ul>							
テキスト（教科書）	必要に応じて提示する。							
参考書および参考文献	テーマに応じて必要なテキスト、参考書、参考資料、学会論文等を提示する。							
受講条件	必修科目							
事前・事後学習（内容・時間）	<p>各回の授業で提示された課題について、その内容を熟考してレポートや発表資料を作成すること（第2～14回、16～29回／90分程度）</p> <p>発表や議論の中で指摘された問題点や課題は、提示された書籍・研究文献等を活用してその内容について調べ、資料としてまとめること（第2～14回、16～29回／90分程度）</p> <p>なお、授業時間外の空き時間にはゼミナール室にて積極的に事前・事後学習に取り組み、疑問点や問題点が生じた場合には速やかに教員とコンタクトをとること</p>							
成績評価	授業内での課題の発表（40%）、期末報告書および学会発表の内容（60%）により評価する。							
評価項目	割合			評価基準				
課題の発表	40%			発表の内容にて理解度を確認するとともに、プレゼンテーション力を評価する。				
期末報告書・学会発表	60%			報告書および学会発表の内容にて、進捗度、理解度およびプレゼンテーション力を確認する。				
授業の実施方法と授業計画	<p>基本的に、特別研究 I では「環境」「再生可能エネルギー」「経済性」をキーワードに修士論文のテーマを設定し、その内容に関する研究の進捗状況および研究結果を報告する。</p> <p>一連の報告に対するディスカッションを通して、研究の進め方・物事の考え方を習得し、修士研究を深化させる。</p> <p>&lt;前半&gt;</p> <p>第1回 修士研究のテーマの設定（ディスカッション）</p> <p>第2～7回 研究の進捗状況および結果の報告・討論（ディスカッション）</p> <p>第8回 中間発表（プレゼンテーション）</p> <p>第9～14回 研究の進捗状況および結果の報告・討論（ディスカッション）</p> <p>第15回 中間発表（プレゼンテーション）</p> <p>&lt;後半&gt;</p> <p>第16～22回 研究の進捗状況および結果の報告・討論（ディスカッション）</p> <p>第23回 中間発表（プレゼンテーション）</p> <p>第24～29回 研究の進捗状況および結果の報告・討論（ディスカッション）</p> <p>第30回 期末発表（プレゼンテーション）</p> <p>なお、研究の遂行上必要となる資料の収集・分析方法、各種計算方法などに対する疑問・質問に対しては、空き時間を活用して適宜個別にフィードバックする。</p> <p>また、学生の進捗状況および希望により、テーマを変更することもある。</p>							
ナンバリング	E1EM5001							

開講年度・開講学期	2020年度 春学期～秋学期			授業コード	50717		
科目	5071 特別研究 I			授業種別	春学期（週間授業）、秋学期（週間授業）		
担当教員	氏原 茂樹			単位数	4		
その他担当者							
授業概要	財務会計の全体像を学ぶ。日本の会計制度は、国際会計基準の影響を受けて急速に変化している。このため、日本の会計基準と国際会計基準とのコンバージェンスが図られてきている。更に、金融商品取引法や会社法も連動して変化した。これらの変化が、日本の会計制度、会計理論等にどのような特徴をもたらしたかを究明したい。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3				
ディプロマポリシーとの関連性		○	◎				
授業の到達目標	国際化が進んでいる日本の会計基準および会計制度の特質を理解できること。						
テキスト（教科書）	桜井久勝『財務会計講義』中央経済社						
参考書および参考文献	氏原茂樹編著『国際財務会計論』税務経理協会（購入を強制しない） 氏原茂樹著『財務諸表論』（購入を強制しない）						
受講条件	財務会計関係の授業科目を受講していることが望ましい。						
事前・事後学習（内容・時間）	①授業前に関係資料等を読むこと、30分。 ②授業後の復習、60分。 ③事前の調べ学習等、60分。 ④定期的試験、120分。 常に、簿記や会計の専門書、専門雑誌及び論文等を広範囲に読んでおくこと。						
成績評価	提出物の内容、学習成果の発表内容、授業中の質疑応答の実態、定期的な試験評価、授業中の学習意欲等に拠る。						
評価項目	割合		評価基準				
定期的な試験	50%		筆記試験にて理解度を確認します。				
課題レポート等	50%		課題等の内容について確認します。				
授業の実施方法と授業計画	第 1 回 ガイダンス 第 2 回 企業の経営活動と会計の役割 第 3 回 経営活動の変遷と利益計算構造の変遷 第 4 回 財務会計の捉え方の特徴 第 5 回 財務会計の基礎概念 第 6 回 会計基準の設定主体と設定プロセス 第 7 回 会計基準と会計制度の関係 第 8 回 日本の会計制度 第 9 回 米国の会計基準制度 第 10 回 国際会計基準制度 第 11 回 資産概念 第 12 回 資産会計 第 13 回 負債会計 第 14 回 引当金会計 第 15 回 退職給付会計 第 16 回 純資産会計 第 17 回 株主資本会計 第 18 回 剰余金会計 第 19 回 評価・換算差額等の会計と計算構造 第 20 回 株主資本等変動計算書と包括利益 第 21 回 損益計算書と包括利益計算書 第 22 回 収益の認識と測定 第 23 回 費用の認識と測定 第 24 回 費用収益対応の原則 第 25 回 純利益と包括利益 第 26 回 財務諸表 第 27 回 連結財務諸表 第 28 回 キャッシュフロー計算書 第 29 回 リース会計 第 30 回 会計基準のコンバージェンス  ただし、受講学生の習熟度により、授業計画を変更することもある。						
ナンバリング	E1EM5001						

開講年度・開講学期	2020 年度 春学期～秋学期			授業コード	50721		
科目	5072 特別研究Ⅱ			授業種別	春学期（週間授業）、秋学期（週間授業）		
担当教員	佐藤 勝尚			単位数	4		
その他担当者							
授業概要	特別研究Ⅰで習得した知見をベースに、学生が自ら問題意識を持つ研究テーマについて研究を進め修士論文としてまとめあげることがを目的とする。						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3				
ディプロマポリシーとの関連性		◎	◎				
授業の到達目標	①主要な先行研究を説明できる ②論文の書き方・作法のポイントを説明できる ③論文の構成とそのつながりを解説できる ④論文の内容をわかり易く説明できる ⑤研究内容を修士論文として仕立てあげられる						
テキスト（教科書）	『創造的論文の書き方』（伊丹敬之 有斐閣）。また、研究テーマに沿った参考文献や参考書を紹介する。						
参考書および参考文献	適宜、修士論文に関する文献を紹介する。						
受講条件	特別研究Ⅰの単位を取得していること。						
事前・事後学習（内容・時間）	『創造的論文の書き方』（伊丹敬之 有斐閣）を読み、論文の作法、研究の進めかたの理解を深めておくこと。						
成績評価	修士論文の内容を評価する。						
評価項目	割合		評価基準				
修士論文の内容	100%		修士論文の出来栄				
授業の実施方法と授業計画	以下のプロセスにより研究を進め、修士論文としてまとめあげる（個別に指導する）。学生各人は研究のいくつかの節目（少なくとも5回）において合同で報告・プレゼンテーションをし情報を交換する。 ①研究テーマに関する先行研究を幅広く体系的にレビューする。 ②問題を明確にして、その説明・解釈のための枠組みを構築し、基本的な仮説を設定する。 ③現象や事例にアプローチしてデータや事実を収集する。 ④データや事実を研究の枠組みに基づいて、分析し仮説の検証あるいは反証をする。 ⑤以上を総合的に検討して、モデル構築、システムを開発あるいは政策を提案する。  研究の方法論は研究テーマにより事例研究などの定性的方法、あるいはアンケート調査、データ分析などによる解析をする定量的方法をとる。						
ナンバリング	E1EM5002						

開講年度・開講学期	2020年度 春学期～秋学期			授業コード	50725		
科目	5072 特別研究Ⅱ			授業種別	春学期（週間授業）、秋学期（週間授業）		
担当教員	見目 喜重			単位数	4		
その他担当者							
授業概要	<p>地球温暖化、石油価格の高騰などを背景に、企業活動におけるエネルギー・環境問題への取組の必要性が改めて認識されている。そうした流れを背景として、本特別研究では、公共施設や民生施設における再生可能エネルギー利用や、企業活動・ビジネスにおける環境・エネルギー政策の省エネルギー効果ならびに経済性を検討する。</p> <p>研究を進めるにあたっては、システムのエネルギーフローモデルの構築、経済性・エネルギー需給制約下でのシステムの最適運用モデルの構築が求められる。そのために、数理計画法の基礎知識、ソフトコンピューティングによる計算モデルの構築法、効率的なデータ処理のためのプログラミング手法およびデータベースの活用法を修得する。</p> <p>また、修士論文の作成を通して研究の進め方、プレゼンテーション手法の修得を目指す。</p> <p>さらに、研究の実施、その成果報告とディスカッションといった一連の活動を通して、学びにおけるPDCAを実践する。</p>						
ディプロマポリシー	DP1	DP2	DP3				
ディプロマポリシーとの関連性	○	◎	◎				
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本のエネルギー・環境問題とその取組について説明できる。</li> <li>・システムのエネルギーフローモデルの構築、経済性・エネルギー需給制約下でのシステムの最適運用モデルを構築するために、ソフトコンピューティングやデータベースを活用できる。</li> <li>・計算モデルを構築して、結果に対してより定量的な考察ができる。</li> <li>・課題の内容を論理的に説明するプレゼンテーションができる。</li> </ul>						
テキスト（教科書）	必要に応じて提示する。						
参考書および参考文献	テーマに応じて必要なテキスト、参考書、参考資料、学会論文等を提示する。						
受講条件	必修科目						
事前・事後学習（内容・時間）	<p>各回の授業で提示された課題について、その内容を熟考してレポートや発表資料を作成すること（第2～14回、16～29回／90分程度）</p> <p>発表や議論の中で指摘された問題点や課題は、提示された書籍・研究文献等を活用してその内容について調べ、資料としてまとめること（第2～14回、16～29回／90分程度）</p> <p>なお、授業時間外の空き時間にはゼミナール室にて積極的に事前・事後学習に取り組み、疑問点や問題点が生じた場合には速やかに教員とコンタクトをとること</p>						
成績評価	成績は、授業内での課題の発表（40%）、期末報告書および学会発表の内容（60%）により評価する。						
評価項目	割合		評価基準				
課題の発表	40%		発表の内容にて理解度を確認するとともに、プレゼンテーション力を評価する。				
期末報告書・学会発表	60%		報告書および学会発表の内容にて、進捗度、理解度およびプレゼンテーション力を確認する。				
授業の実施方法と授業計画	<p>特別研究Ⅰにて設定したテーマに関する研究の進捗状況および研究結果を報告する。</p> <p>一連の報告に対するディスカッションを通して、研究の進め方・物事の考え方を習得し、修士研究を深化させて研究の完成度を高める。</p> <p>&lt;前半&gt;</p> <p>第1回 修士研究のテーマの設定（ディスカッション）</p> <p>第2～7回 研究の進捗状況および結果の報告・討論（ディスカッション）</p> <p>第8回 中間発表（プレゼンテーション）</p> <p>第9～14回 研究の進捗状況および結果の報告・討論（ディスカッション）</p> <p>第15回 中間発表（プレゼンテーション）</p> <p>&lt;後半&gt;</p> <p>第16～22回 研究の進捗状況および結果の報告・討論（ディスカッション）</p> <p>第23回 中間発表（プレゼンテーション）</p> <p>第24～29回 研究の進捗状況および結果の報告・討論（ディスカッション）</p> <p>第30回 最終発表（プレゼンテーション）</p> <p>なお、研究の遂行上必要となる資料の収集・分析方法、各種計算方法などに対する疑問・質問に対しては、空き時間を活用して適宜個別にフィードバックする。</p> <p>また、学生の進捗状況および希望により、テーマを変更することもある。</p>						
ナンバリング	E1EM5002						